

総務文教常任委員会会議記録

- 1 日 時 令和8年7月10日(金)午後1時30分から午後3時01分まで
- 2 場 所 第2委員会室
- 3 出席委員 小野塚委員長、木内副委員長、齋藤智、茂木、戸部、桑原各委員
- 4 説明者 村田総務部長、永井秘書課長、角田企画政策課長長
星野教育部長、織田澤教育総務課長
- 5 事務局 織田澤事務局長、峰岸次長兼庶務係長
- 6 傍聴者 新聞記者 2名
- 7 議 事 (1) 教育部各課の所管事項報告・調査事項説明
(2) 総務部各課の所管事項報告・調査事項説明
(3) 総務部及び教育部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換
(4) 今後の日程について
(5) その他

8 会議の概要

(1) 教育部各課の所管事項報告・調査事項説明

○委員長 それでは、次第(1)教育部各課の所管事項報告・調査事項説明に入る。

教育総務課の所管に係る事項について説明願う。教育総務課長。

(織田澤教育総務課長 説明)

ア 教育総務課

・調査事項

- 1 沼田市新たな学校づくり実施計画の進捗状況について
- 2 少子高齢化に伴う給食センター機能施設の課題について

・報告事項

- 1 沼田市教育委員会教育委員の異動について

○教育総務課長 それでは教育総務課の調査・報告事項について御説明申し上げます。

資料1ページを御覧いただきたい。まず調査事項1「沼田市新たな学校づくり実施計画の進捗状況について」であるが、資料2ページを御覧いただきたい。まず、義務教育学校の欄であるが、6月29日に総務部会を開催し、新たな校名の募集方法等について協議を行った。校名は、7月31日付けの全戸配布、学校からの保護者宛てのメール、SNS等により、白沢、利根地区に在住、在勤、在学の方、地区の学校を卒業した方等を対象として募集する方向で進めている。

次に、池田小中学校、薄根小中学校の統合については、7月28日に総務部会を開催する予定である。また、5月に開催した統合準備委員会の検討状況等については、7月15日に、統合準備委員会だよりを回覧し、地域への周知に努めていく。

次に、沼中と東中の統合については、7月3日に教育活動部会と学校環境部会を合同で、7月29日には総務部会を開催する。なお、5月に開催した統合準備委員会の検討内容等に

については、7月15日付けで沼中と東中に係る統合準備委員会だよりを作成し、沼中、東中、南中、西中学区に回覧し、周知をしていく。

次に、東小と北小については、6月24日に統合準備委員会を開催し、令和10年度の統合に向けた話し合いを開始し、順次専門部会を設置することとした。なお、資料3ページには、東小と北小の統合に伴う沼小との学区変更について示している。令和10年度の東小と北小の統合に併せて、柳町と材木町の児童については、沼小への通学を予定しているが、資料のような特例措置、経過措置を設けている。東小と北小の統合準備委員会においては、育成会代表、民生委員児童委員代表等に出席を依頼し、情報共有等を行っている。

次に、利南東小については、移転後の校舎となる東中の工事設計を進めている。この設計により、令和9年度より工事を開始したいと考えている。なお、移転期間については、令和10年4月以降になる見込みである。

次の制服統一化については、現在沼田市中学校制服の製作を希望する4者からサンプルの提出をいただいている。審査に合格すると製造メーカーとして認定する。その後、販売する店舗を確認する流れとなっている。

続いて、調査事項2「少子高齢化に伴う給食センター機能施設の課題について」であるが、資料は4ページを御覧いただきたい。沼田市給食センターは、市立義務教育諸学校の給食を提供するため、令和2年7月に学校施設環境改善交付金を活用して竣工したものである。資料1にあるとおり、1日当たりの最大給食数は4,000食である。これに対して、2に示したとおり、令和8年7月1日現在の給食提供数は、職員、特別支援学校分を含み3,052食であることから、少子化に伴う余力活力については、検討をしているところである。余力活力の方法としては、近隣町村の義務教育諸学校への給食提供、近隣高校や保育園への給食提供、さらには高齢者福祉施設等への給食提供等があると考えるが、現状御報告できる成果はない。引き続き、給食センターの広域的な活用を視野に検討をしていく。

続いて、報告事項1「沼田市教育委員会教育委員の異動について」であるが、資料5ページを御覧いただきたい。令和4年10月から教育委員としてお世話になっていた武藤英子委員について、令和8年6月30日をもって辞職されたので報告する。それに伴い、教育長職務代理者についても、令和8年7月1日付けで長谷川清委員を指名した。これにより、議会の同意をいただき新たな委員を選出する令和8年10月までの3か月間については、教育長、教育委員3名体制で取り組むこととなるのでよろしくお願い申し上げます。

教育総務課からは以上である。

○委員長 説明が終わった。質疑を行う。調査事項1「沼田市新たな学校づくり実施計画の進捗状況について」質疑はあるか。齋藤委員。

○齋藤委員 柳町と材木町の通学区域の変更についてであるが、こちらは市民の方から、実際にどのような声を聞いてきたのか、具体的な声があればお伺いしたい。

○教育総務課長 こちらは沼田市新たな学校づくり実施計画で示しており、その実施計画の周知をさせていただく中で、こちらの学区変更についても、皆様のほうから御意見をいただいている。電話等において、今通っている学校で仲のいい友達と別れてしまうのは、保護者としては悲しいなど、そういう点もいろいろ検討していただきたいという御意見を数件いただいております。再度検討した結果、この特例措置、経過措置を設けることとした。

○委員長 ほかに。桑原委員。

○桑原委員 最初の説明の進捗状況であるが、御説明の内容に関しては十分分かった。それで2番目の池田と薄根小学校の統合の段階であるが、昨年からいろいろな市民などから池田側から来るスクールバスの件で、駐車場が薄根小学校は非常に狭くて、駐車場の確保という意見が出ていたと思うが、その辺の結果、進捗はどうなっているのか伺いたい。

○教育総務課長 薄根小の駐車場についての御意見かと思うが、保護者送迎用の駐車場は基本的には用意していないので、徒歩通学をしていただいている現状である。熊対応として熊が出没したとき、保護者の送迎をお願いするような場合もあり、統合する学校においては、駐車場が足りなくなる可能性も視野に検討は進めている。薄根に関しては、薄根幼稚園の隣を借地でお借りしているところであるので、池田から来るスクールバスの駐車なり迂回場所なりで使用するに当たって、工事等が必要かどうか予算も含めて検討を進めているところであるので、具体的な内容についてはお答えするものはない。

○桑原委員 その場所については、当然いいと思うが、私もそうだろうなと思ったのだが、そこは傾斜地で段差がある。スクールバスについては車体が長いので、あの落差は危ないので、そこは1度再検討する必要があると思う。もう1点これは部長からもアドバイスがあったと思うが、スクールバスをそこに置いてもいいと思うが、実は学校北側の先生専用駐車場のところまで送迎ができれば一番スムーズだろうと思っているのだが、信号から鋭角に曲がって、学校の裏に行くと右側に畑がある。結構広い面積でその辺の検討をしたのか教えてもらいたい。

○教育総務課長 今、まず御指摘いただいた児童生徒のほうは、薄根小学校の中に車を入れ降ろすということを想定して検討は進めている。また、鋭角に曲がるところの土地については、かなり広い面積があり、また道路との段差もあり、そちらをどうするかは検討したが、まず近いところで既に幼稚園横の借地をこちらで管理しているところであったので、現在お借りしているところを優先して活用方法を検討しているところである。

○桑原 分かった。それでいいと思う。私の勘違いかもしれないが、今の御説明だと、一般保護者に関しては、幼稚園の隣のところでもいいと思う。学校に入ってというのは、グラウンドに入ってという意味なのか。そこまで入って降ろすということなのか。そこをもう1度教えていただきたい。

○教育総務課長 今まだ学校と最終的な内容までは協議をしていないので、職員駐車場の辺り、または校庭どちらかで調整を進めている。バス自体もそちらに入れてお子さんを降ろすことで想定している。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 次に、調査事項2「少子高齢化に伴う給食センター機能施設の課題について」質疑はあるか。茂木委員。

○茂木委員 先ほど説明いただき給食センターでは4,000食ができるとのことだが、ただいま3,052食と、説明の中で近隣の学校や高校、高齢者施設にも検討していくという説明があったと思うが、それはいつぐらいからか大体決まっているのか、その辺を教えていただきたい。

○教育総務課長 いつ頃からということは過去にも担当者の間では、少し情報共有等しており、現在もあらゆる情報がこちらに入ったところで協議はしているので、もう既に検討

は進めているが、いつ頃かというのは、実際に具体的に何か協議が調ったら、その段階からいつからということを検討していきたいと考えている。

○茂木委員 近隣の高齢者施設から作っていただきたいという声を私も聞いている。学校給食センターで余力があるのであれば、学校給食センターで作ったものなら安心安全だというようなことを言っていたので、これは給食センター運営費にも関わってくるのだと思うので、できるだけ早めにそういった対応をしていただければ、コスト削減にもつながるのではないかと思います。その辺ぜひよろしくをお願いしたい。また、給食数はだんだん減っていくのだが、運営上の関係で、最低食というのは大体めどはつけているのか。これを下回ると増やしていかなければならないなど、先ほど言われたようなことだと思うが、その辺のところで、何食ぐらいをめどにしているのか伺いたい。

○教育総務課長 最低の食数は私のほうでは把握をしていない。委託の中で、業者への給食の調理及び配送の委託の中でも1人に付き年間200食といった数字が出てきているところであり、そちらの数字については検討させていただいてお答えできるように、こちらも数字のほうを把握していきたいと考えている。

○桑原委員 すごく重要なことだが、6年間でざっと600人子供が減る。これから取り組むことについては、非常にいいことだと思う。給食センターの施設はまだ新しいし、当然職員もいる。だから先ほど説明があった高齢者施設にという話はいいなと思っている。ぜひ実現してもらいたい。その中で、これ所管が違ふのだが、この後企画政策課で質疑が出るエッセンシャルサービスについて、まさしく配送サービスである。これは所管が違ふのだが、給食センターも、子供が減れば当然配送の能力も減ってくるし、もしかしたら統合していけば、車の台数は減るのだが、それを減らさずに、連携していただきたい。企画政策課のエッセンシャルサービスとも連携は、間違いなく有利なポイントだから、回答はいいが、ぜひうまく連携すると、すごくいい使い方ができるのではないかと考えているので、それをぜひお願いしたい。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 次に、報告事項1「沼田市教育委員会委員の異動について」質疑はあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 なければ以上で教育総務課を終了する。

(4) 今後の日程について

次に(4)今後の日程について、ア次回の委員会について事務局説明願う。

(事務局書記 説明)

○委員長 説明が終わった。次回の委員会については、事務局からの説明のとおりでよろしいか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○委員長 それではそのように決定する。

以上で教育部各課の所管事項報告及び調査事項説明を終了する。

(教育部 退室)

（２）総務部各課の所管事項報告・調査事項説明

○委員長 それでは（２）総務部各課の所管事項報告・調査事項説明に入る。最初に秘書課の所管に係る事項について秘書課長報告願う。秘書課長。

（永井秘書課長 報告）

ア 秘書課

・報告事項

- 1 公有施設見学会について
- 2 「姉妹都市提携60周年記念」下田市来訪事業について

○秘書課長 秘書課から２件御報告させていただく。まず、報告事項１「公有施設見学会について」であるが、広報事業の一環として実施する公有施設見学会を、７月２９日水曜日と８月７日金曜日に実施する。７月２９日は、テラス沼田、給食センター、菌原ダム、中央消防署を見学し、８月７日は、テラス沼田、沼田警察署、菌原ダム、中央消防署を見学する予定である。広報ぬまた７月号及び公式ＳＮＳによる広報のほか、校長会においても、市内小学生宛てに周知を行い、今日時点で、両日とも定員に達している。

次に、報告事項２「「姉妹都市提携60周年記念」下田市来訪事業について」であるが、歓迎交流会を、８月３日月曜日午後６時３０分から、姫本にて行う。例年開催している沼田まつり歓迎交流会に併せて実施し、参加者は例年の沼田まつり歓迎交流会出席者に、下田市民号約３０名を加えた計７０名程度の参加者を予定している。次に、記念植樹式典について、８月４日火曜日午前９時３０分から利南運動公園にて行い、下田市の白浜伊古奈桜１本を植樹する。参加者は、沼田市から、市長、副市長、教育長、議長、市議会議員、商工会議所会頭、観光協会会長、ＪＡ利根沼田組合長、下田市からは、下田市長をはじめとする市民号約３０名を予定している。記念植樹式典が終了後、テラス沼田の議場に移動し、午前１０時４５分から、両市長による覚書締結式を予定している。また、覚書締結式終了後に、望郷の湯へ移動し、昼食をとった後、下田市民号の皆さんは、沼田を出発する予定となっている。

秘書課からは以上である。

○委員長 説明が終わった。質疑を行う。まず、報告事項１「公有施設見学会について」質疑はあるか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長 次に報告事項２「「姉妹都市提携60周年記念」下田市来訪事業について」質疑はあるか。戸部委員。

○戸部委員 記念植樹であるが、場所は決まっているのか。

○秘書課長 場所は利南運動公園の芝生広場があり、野球場の外野の裏側に、芝生の公園があるが、以前平和の木を植えた場所であり、そちらの一角に空いているところがあるのでそちらに植樹をする予定である。

○戸部委員 芝生広場とは、左側の奥まったところか。歩道コースのギリギリになるのか。

○秘書課長 芝生の奥というか、端のほうに植える予定である。

○委員長 ほかに。桑原委員。

○桑原委員 交流会が総勢約70名であるが、場所が変わったのでしようがないが、交流会において、下田市訪問のときにはいろいろな関係団体の踊りなど行っているが、当然今回は不可能かと思うが、姫本の2階でやる中で、70名、下田市が30名、沼田市が40名の中で、歓迎交流会のメインは何か。何をメインとしてやるのか伺いたい。

○秘書課長 今回開場が姫本に変わって、現地を確認したが、ステージを設けるのが難しく、下田市訪問の際にアトラクションとして太鼓をそれぞれで披露したのだが、下田市では今回予定がないということで、沼田市は現時点で考えていることは、アンバサダーの富沢さんに演奏していただくことで予定している。今回の沼田まつりの例年行っている歓迎交流会に併せて、下田市の60周年記念歓迎交流会を行うものであるから、それだけ単独では行えないのだが、その中で下田市からの記念品の贈呈などを行う予定である。

○桑原委員 場所についてしようがない。要するに沼田まつりを散策しながら、あそこで食事会的なイメージということでよいか。

○秘書課長 そのとおりである。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 なければ以上で秘書課を終了する。

次に、企画政策課の所管に係る事項について企画政策課長説明願う。

(角田企画政策課長 説明)

イ 企画政策課

・調査事項

1 めまくるの利用状況について

2 エssenシャルサービスの進捗状況について

○企画政策課長 それでは企画政策課の調査事項について御説明申し上げます。3ページを御覧いただきたい。まず、調査事項1「めまくるの利用状況について」であるが、4ページから7ページに、めまくるの利用実績を添付している。4ページの上段が佐山線になるが、各年度の輸送人員に加えて、令和7年度の運行当たりの輸送人員を月別、年度別に表記している。以下同様に、下段が岩本線、5ページが中山本宿線、迦葉山線、6ページが南郷線、根利尾瀬高線、7ページが上段がデマンドバス、下段がめまくる全体の利用実績となる。めまくるの利用者数は、近年増加傾向にあったが、令和7年度の合計では、利用者数が3万5,644人と、前年度の3万6,514人に対し、マイナス870人となっている。この要因については、5ページ上段に記載のある中山本宿線の令和7年度の利用者が1万2,694人と、前年比でマイナス2,719人となっている。これは、令和7年4月に新沼田高校が開校したことに伴い、今まで中山本宿線を利用していただいていた沼田女子高校の生徒が、沼田高校前に停車する鎌田線を利用して通学することになったことが、大きな要因であると考えている。なお、めまくる全体としては、利用者が減少した結果となっているが、デマンドバス合計の利用者については、引き続き増加傾向となっている。

次に、調査事項2「エssenシャルサービスの進捗状況について」であるが、8ページ

を御覧いただきたい。こちらは、改正後の産業競争力強化法の概要である。主な内容は、事業者によるエッセンシャルサービスの供給の持続性を確保するため、事業運営の効率化を促進するための金融支援や、エッセンシャルサービス供給事業者の伴走支援を行う支援機関の認定制度を創設する、というものである。主に、こちらの政策に関連して、民間事業者の方々からの御提案や、また、実際に動きがあることも承知しているが、現状で、具体的にお示しできる状況には至っていない。本件に関しては、状況が整ったら改めて御報告をさせていただくので、何とぞ御理解賜りたいと思う。

企画政策課からは以上である。

○委員長 説明が終わった。質疑を行う。調査事項1「ぬまくるの利用状況について」質疑はあるか。齋藤委員。

○齋藤委員 こちらの資料で具体的なデータをお示しいただき感謝する。このぬまくるは増加しているのだが、路線バスのほうが減少傾向にあると理解した。ぬまくるは増えていて路線バスが減っているとなると、お互いで何かこう奪い合っているのではないかと思えたのだが、その辺実際のところはどうか。分かれば教えていただきたい。

○企画政策課長 デマンドバスと路線バスに関しては、そもそもデマンドバスは路線バスで対応できない部分を補完する役割ということで導入をさせていただいた経過もある。なので、お互いに今おっしゃったような顧客を取り合っているような状況にはなっていないという認識である。

○齋藤委員 そのようなことを聞けて安心した。ぬまくるの利用のエリアがすごく広いので、B・Cエリアの地域柄もあるのだと思うが、今後さらに伸ばしていくために、現在の利用者の年齢層であるとか、利用目的だとか利用時間帯など、そういった把握ももちろん大事なのだが、利用していない方がなぜ利用しないのかということも把握することは大事だと考えている。その辺の理由についてどのようなことが分かっているのか伺う。

○企画政策課長 イベントや年に1回アンケートを実施しているのだが、そこからの分析によると、やはり予約が難しいのではないかと考えている方が多い傾向にある。どうしても地域柄車で移動するということで、これは特にイベントのときに多い声であるが、まだ車に乗れるから、でもこれから免許を返納したりするときに備えてぬまくるの使い方を教えてほしいという意見が多い状況であるので、なかなか難しい状況である。

○齋藤委員 現在の利用者が、こういった方なのかを確認したいのだが、例えば、今後のぬまくるを活用していく上で、学生や商業施設に行きたい方など、ニーズの範囲を増やしていくということもあるのかと思うが、その辺についてお考えがあれば伺いたい。

○企画政策課長 この委託している路線バスと、デマンドバス合わせてぬまくるという総称で呼んでいるのだが、若い人が主に使うのはやはりこのぬまくるのうちでも路線バス委託路線のほうである。主に通学で使われているということが多い状況である。逆にデマンドのほうは若い方の利用というのは少ない傾向にあると思う。今数字を持ち合わせていないため、確かな数字をお答えできないが、現状は以上である。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 次に、調査事項2「エッセンシャルサービスの推進状況について」質疑はあるか。副委員長。

○副委員長 先ほどエッセンシャルサービスの件について、現状ではなかなかまだ提示できる内容がないというようにお伺いをしたわけであるが、改めてお聞きするが、進捗状況について話せるものがあれば、お聞かせ願いたい。

○企画政策課長 申し訳ないが、先ほども申し上げたとおり、具体的にお示しできる状況には至っていないという現状である。

○副委員長 先ほどの説明もそのようなことで理解をしたわけであるが、このエッセンシャルサービスはいろいろな目的というのか、考え方の中で庁内横断的に、先ほども教育面でもお話が出たが、給食の配送車を利用した何かと絡めるであるとか、医療であるとか福祉の関係もいろいろ進めていかなければならない。あるいは小売業者などとも提携を結んでいかなければならないと考えるわけであるが、今具体的に手を挙げたというのか、この取組に積極的に手を挙げている事業者はいるのか教えていただきたい。

○企画政策課長 こちらの先ほどお示しした産業競争力強化法の改正後のものについては、民間事業者などが主体になって市がバックアップしていくという流れになるので、市が取りまとめるという流れではない概要のものになる。繰り返して大変恐縮であるが、今のどのような事業者からどのような内容でというのが具体的にお示しできる状況ではないので、何とぞ御理解いただければと思う。

○副委員長 これから少子高齢化の沼田市で、当然いろいろな意味合いでこういったソーシャルサービスの重要性というのが言われる時代になると思うので、ぜひとも提案の事業者とうまく協議をいただいて、市民の利便性につながるようなサービスにしていいただければと思う。引き続きよろしく願います。答弁は結構である。

○委員長 ほかに。桑原委員。

○桑原委員 事業者の内容は今のことで分かったが、この文書上で、幾つか聞きたいが、上段の産業競争力強化法が改正されてエッセンシャルサービスになっているのだが、上段の効率化に取り組む事業計画の認定制度の創設部分であるが、事業計画の認定制度で認定する機関が沼田市なのかということが1点と、もう1点、6月末であったか、既に経産省で公募が始まっているが、経産省・国交省は、要するに先ほど言った認定制度を認めたところに対して、例えば国が公募で団体がノミネートして団体の運営に対して補助金的な支援を行政がするのか聞きたかったのだが、それはどうなのか。

○企画政策課長 8ページのものについては、認定をするのは市町村という認識である。それから、経産省のほうで締切りが6月で公募を受け付けていたもののことかと思うが、生活維持役務等効率化促進事業という関連事業のもので、そちらは6月で公募は締切りになっているので、もしあるとすれば第2弾、第3弾のところになると思う。国交省でも、エッセンシャルサービスの関係はいろいろあると思うが、その辺をどういうふうに進めていくかというのは、具体的に今お示しできる状況ではないが、順番を前後して申し訳ないが、添付した8ページのものについては、いわゆる補助金が出るような内容のものではない。

○桑原委員 分かった。もう1点であるが、補助があるかないかは別にして、そもそも認定制度で認定は沼田市だということだが、認定すべき団体の中身がどうしてもなければ認定しないと思うが、例えばキャパ的な問題であるとか、職种的な問題を含めて、1事業でないと思うが、どのぐらいの団体を想定しているのか。Aの団体はこういうことをやり

たい、Bの団体はこういうことをやりたい、Cの団体はこういうことをやりたいとなったときに、市長がエッセンシャルサービスをやるということは聞いているが、1事業に対してやろうとしているのか、コアを2つなり3つに増やしていくことは可能だというふうに私は認識していいのか教えていただきたい。

○企画政策課長 エッセンシャルサービス自体が多岐にわたるものであるので、このカテゴリーという縛りはないと思うが、大変申し訳ないが、今の段階で、これについてとか、これとこれ、複合的に考えているという、具体的にお示しできる状況ではないということ、大変申し訳ないが御理解いただければと思う。

○桑原委員 了解した。

○委員長 ほかに。戸部委員。

○戸部委員 このエッセンシャルサービスは、コロナ禍が始まった後から出たと思うが、コロナ禍で疲弊して、エッセンシャルサービスは人々の生命や健康とか、社会的インフラとか、そういったサービスを行うためのエッセンシャルサービスだと思う。

だからその辺で認定を受けた事業者が、国の日本政策金融公庫から0.9%の金利で借りたりとか、財務省は中小企業基盤整備機構が債務保証してくれるとか、そういう基本で始まっていると思うが、その辺で市が公募とか、こういうことがあるよという募集を行っていくのか伺いたい。

○企画政策課長 添付したこちらの事業に関して、市がこういうものがあるといった、いわゆる周知みたいなことは現在行っていない。

○戸部委員 これはエッセンシャルサービスで、いろいろな業種が入ると思う。医師であるとか看護師、介護職員だとか、1次産業の農業、林業、全部含まれている中でやっていると思うが、やはり何かこういうことがありますよ皆さんどうですかみたいな、あるいは市の事業者でも民間でもいいが、そういったところに広報などを1回行ったほうがいいのではないかなと思うが、その辺の考えを伺いたい。

○企画政策課長 国のこういった制度については、すごく大事な内容のものであるが、ほかにもたくさんある。これだけについてということは現状では検討していない状況である。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 なければ私からいいか。

○副委員長 進行を交代する。委員長。

○委員長 このエッセンシャルサービスであるが、この間勉強をしたところで、国のほうも経産省が出しているが、国交省であったり文科省であったり、厚生労働省であったりいろいろな縦割りではできない問題がいっぱいあるということで始まっているのかと思う。よくよく見ると、本当に沼田のためにあるような、全国の疲れきった自治体のためにあるような枠組みになってきていると思うが、先ほどあったのだが、教育部のほうで、給食センターの給食数が減ってきたときに、そこの配送であったり配食であったり、何か違う分野につなげられないかといったときに、組織の壁というものが絶対出てしまうところが出てくるのだが、企画政策課としては、もしこういう事業を進めるときに、その縦の組織の壁というのか、所管の壁というものに対して、今のところどういう認識があるのかお聞かせいただきたい。壊していくのか、今のまま平行線でいくのか。

○企画政策課長 このエッセンシャルサービス自体が、今おっしゃったように本当に広範囲に広がる事業であるので、その辺は全庁的に対応していかなければならないと思っている。

○委員長 恐らく沼田の困っていることは全国的に同じ困りごとがあると思うのだが、群馬県で見たときに、沼田市が一番いろいろなものが困っている現状というのがあるのかと思っている。やはりここは、どこかがどこかの課、ここでは企画政策課になってしまうのだが、リーダーシップを取っていただいて、壁を壊していく、壊していくというのはあまり好きな表現ではないが、今までの常識ではないのだよという庁内に対するアナウンス、全庁的にやっていくよというコメントだったのだが、庁内に対する全庁的な壁を少し外に出すというような周知というのは具体的にどのようなアクションが行われるのか教えていただきたい。

○企画政策課長 この制度に関して言えば、壁があるという認識は当課では持っていないので、当然広範囲にわたるので、まず何をするかという選択が必要になってくると思う。全部はできないので、その選択の中で、必要に応じて当然今おっしゃったような危惧されているようなことは当然払拭して対応していきたいと考えている。

○委員長 それでは、恐らく沼田市にいっぱい困りごとがあると思うが、それに対する事業者というのが幾つも多分いると思う。それが集まってくると思われるので、ぜひその課題に対応する、積極的な庁内の動きというのか、活性化していただければと思う。ぜひ推進していただくようお願いをして、質疑ではなくなってしまうが、お願いを申し上げ最後の言葉とする。

以上で企画政策課を終了する。

（４）今後の日程について

○委員長 次に、（４）今後の日程について、次回の委員会について事務局説明願う。

（事務局書記 説明）

○委員長 説明が終わった。次回の委員会については、事務局からの説明のとおりでよいか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○委員長 それではそのように決定する。

以上で総務部各課の所管事項報告・調査事項説明を終了する。休憩する。

（総務部 退室）

（休憩 午後２時21分から午後２時25分まで）

（３）総務部及び教育部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換

○委員長 それでは休憩前に引き続き会議を開く。来月の調査事項の調整をしたいと思う。教育委員会のほうからお願いする。

○桑原委員 熊の対策について、今後やるのであれば、熊が出てからやるのか、計画的にやっていくのかそこを確認したい。前は急だったので薄根は教育委員会でやっていたが、

今回どうするのか分からない。今回は薄根だけではないと思うので、今年度体制をどのように考えているのか調査してもらいたい。

○副委員長 バス以外の対応も含めてか。

○戸部委員 白沢はバスであったが。

○桑原委員 薄根は基本的にバスがないから、来年度以降は変わってくるが、今年はまだバスがない。熊対策の子供の見守りについて。

○委員長 熊対策として大きく、くくってもいいか。

○桑原委員 熊対策での、見守りを去年は急だったので教育委員会がやった。保護者も出ていたが、毎日すごい人数であった。それを今年も継続してやるのか、PTAとも話をし、組織をつくってやるのか分からないので、その熊対策に対しての調査をしたい。もちろん、薄根も要望したが、バスで送迎をとという声が多く出たが、結局去年はできないということであった。バス移動で子供を守るといったことでやるのか方針が分からない。そこを調査してもらいたい。

○委員長 熊対策ということで。

○桑原委員 もう1点、遊具の老朽化に対して調査してもらいたい。薄根小学校でこの間見させてもらったが、うんていとか滑り台とかジャングルジム、大体6から8くらい遊具が学校にあると思うのだが、薄根はほぼ半分以上は、要するに寿命で使わないでくださいとそのまま張り紙が張っておいてあるだけである。ほかの遊具関係についても調べたほうがいいと思う。撤去もしていないし、張り紙が張ってあるだけである。今後、遊具を全部壊してゼロにする方針なのか、体育の授業で鉄棒を使うわけであるので、校長は何とか使っていると言っていたが。体育授業であったら影響するので、小学校については全部設定しているはずなので、そこがどの程度使えるようになっているのか、使えないのか。

○委員長 遊具の点検状況で出しておいて、それで駄目になっているものもあると思う。

○桑原委員 それをどうするのかという話である。ただ張り紙をしている状況を見たが、そのまま放置はしないと思うが、1回撤去して新設するのか、その方針を聞きたい。多分それは薄根だけではないと思う。

○戸部委員 定期検査は法律で決まっているので行っていると思う。

○桑原委員 それこそ合併するのに、池田のほうがよかったが、こちらは全然駄目だったということもでてくる。

○戸部委員 定期検査の金額も大分かかっていると思う。

○委員長 遊具の点検結果と点検状況について。

○戸部委員 同じことであるが、熊の目撃情報による各学校による対策について、各学校の状況を聞きたい。各学校での対応。

○委員長 学校によって対応はまばらであると思う。

○戸部委員 各学校はどのような対策をしているのか、その辺の確認をしたい。

○委員長 熊の目撃情報による各学校の対応状況について。

○戸部委員 学校によって大分対応が違う。白沢では、学校帰りにバスに乗せるなど、夕方まで預かる学童の子供たちは迎えに来るから大丈夫であるが、マイクロバスに乗ってもまだ遠いところがあるわけで、そういったところはどうするのか。去年も白沢ではもめていた。

○委員長 先ほどの熊と併せて出す。ほかに。

私から、学校の統廃合でどうしても、ぼちぼち気になる点で、前々回くらいか、その前に調査事項として入れているが、不登校の対応がどうになってしまうのか。

○桑原委員 これは聞いたのではないか。

○委員長 聞いたのだが、支援員とかを配置しているというはあるが、不登校なので行けなくなってしまった子に対するサポートというのが、そろそろ現れるのだろうと思う。

○齋藤委員 基本的には担任がやったり、学年でやったりしている。

○委員長 どこかにそういった場所を作ってもいいのかなと。

○副委員長 学びの多様化学校であったか、藤岡市であったか県内でも幾つかある。

○委員長 何かそういった場所が必要ではなかろうかと、空いた学校を使って、特別学校ではないが、どのような名前でもどのようなのがいいのか知識はないが、多分学校に行けない子が統計的には増えるだろうと思うので、過去半年ぐらいでしているはずなので、その検討状況を踏まえて調整して、質疑を出すか出さないか決めさせてもらいたい。

○桑原委員 先ほどの説明で、同級生と離れてしまうからという話があったが、統合すると必ず不登校やいじめが増えるというデータが出ているようである。

○委員長 統計が取れているみたいである。

○桑原委員 それを想定した中で、調査になるか分からないが、当然想定していると思う。そこも踏まえて、今の話を統合すると必ず不登校になるというデータがあるらしいから、そういうことを認識しつつの見解をやはり聞いたほうがいいと思う。

○委員長 通常の不登校に対する対応の仕方もあると思うが、多分そういうのではないぐらい統廃合が進んでしまうから、多分そこにどれだけ力を使えるか分からないが、準備はしてもらったほうがいいのだろうなと思う。

○桑原委員 調査をすべきである。

○委員長 たんばら森林の学校の課題について送りたい。非常に危なく問題があると思う。

○副委員長 学校跡地の利活用についてのサウンディング調査が4月から6月末ぐらいに実施されたと思うが、その調査報告を確認したい。もう1点、以前の委員会ときに、それより後だったか覚えていないのだが、市内で詐欺事件が起きていて、中発知町でも若い世代が留守のときの平日に、いわゆる受け子という役割の方が来て、詐欺にあったのだが、タクシーに乗ってきたらしくて、帰りも近くの商店からタクシーを呼んで帰ったので、タクシーの運転手がおかしいと思い、通報を行い捕まった。最近、恩田町、上原町など何か所かであるようで、メールなどで注意してくださいというのが来ていると思うが、詐欺に対する注意や啓発について伺いたい。

○戸部委員 地域安全課か総務課か。

○事務局長 詐欺の現状と対応について。

○副委員長 現状と防ぐための対応。ホッとメールを見る人は限られてしまうと思う。

○事務局 調査事項について、まとめさせてもらう。1点が、小学校の遊具の状況及び今後の方針について。次が、各学校の熊目撃情報による対応状況、対応方針について。

○戸部委員 各学校の対策について。多分ある程度マニュアルはできていると思うが。

○事務局 熊目撃情報に対する各学校の対策について。次に、統合による不登校の対応準備について。次に、たんばら森林の学校の課題について。次に、学校のサウンディング調

査の結果について。次に、詐欺に対する啓発活動について。

○委員長 以上でよろしいか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

(4) 今後の日程について

○委員長 次に(4)今後の日程について、イ 今後のスケジュールについて事務局説明願う。

(事務局書記 説明)

○委員長 説明が終わった。御承知おきいただきたい。

(5) その他

○委員長 次に、(5)その他について何かあるか。事務局。

(事務局 沼田まつり、歓迎交流会、下田市姉妹都市提携60周年記念植樹及び覚書締結式、群馬県市議会議長会議員研修について 説明)

○委員長 説明が終わった。以上のとおり御承知おき願う。

ほかにあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 なければ以上で本日の委員会を終了する。

(午後3時01分 終了)